

【第3回八戸市総合計画策定委員会（4/21開催）】
基本構想（素案）の構成における委員意見に対する対応方針について

基本構想（素案）の審議にて御意見承りました基本構想の構成における対応方針について、正・副委員長に御相談のうえ、まとめたものを御報告いたします。

発言内容		対応方針
4つの柱に関する記載について	<ul style="list-style-type: none"> ・どの自治体でもあてはまるため、工夫すべきである。 ・4つの柱を「挑戦、応援、感動、温もり」のようなタイトルに加工してはどうか。 	<p>素案でお示した4つの柱については、行政計画である基本計画を意識した内容として作成しておりましたが、その内容を活かしたまま「挑戦、応援、感動、温もり」を柱のタイトルとして表現した場合、従来の柱の作成趣旨と異なってくることから、委員の御意見については、柱に代わる考えとして、将来都市像の実現に向け市民や多様な主体が共有し、共に育んでいく「4つの理念」と整理するとともに、その趣旨にあわせて記載内容についても見直しを行います。</p> <p>なお、4つの柱（ひと・経済・まち・魅力）については、行政として推進すべき大分野を示すものとして、行政計画にあたる基本計画に位置付けるよう整理いたします。</p>
章の順番について	<ul style="list-style-type: none"> ・第3章の「はちのへについて」を冒頭に持ってきた方がよいのではないか。 	<p>骨子案(1/16 策定委員会)に対し、「読ませる基本構想ではなく、見せる基本構想とした方がよい。そのため、将来都市像を冒頭に配置した方がよいのではないか」との御意見をいただいたことを踏まえ、素案(4/21 策定委員会)では将来都市像を冒頭に配置したところです。将来都市像を市民に分かりやすく印象的に伝える観点から、引き続き冒頭に配置することといたします。</p>
人口減少に関する記載について	—	<p>基本構想については、将来都市像や理念など、市民と共有すべき方向性を中心とした内容とすることから、将来都市像や基本構想の策定主旨等の文章において、人口減少社会への認識は盛り込みつつも、人口減少に伴う具体的な課題への対応については、行政計画である基本計画に位置付けることといたします。このため、基本計画において、人口の見通しに関するグラフ等を掲載するページを設けることといたします。</p> <p>なお、市では人口減少対策に特化した戦略として、別途「はちのへ創生総合戦略」を策定し、施策を推進しているところです。人口減少にも触れる次期総合計画と同戦略との住み分けとしては、総合計画を「一人ひとりの幸福度や満足度の向上」を目的とする計画、総合戦略を「人口規模の縮小を可能な限り抑制するとともに、人口減少社会への適応策を講じる」ことを目的とする計画として整理しております。</p>
行動指針に関する記載について	<ul style="list-style-type: none"> ・行動指針を設ける目的が見えにくい。 	<p>まちづくりに対する考え方を市民と共有するために設けていた項目でしたが、上述のとおり「4つの理念」を設けることとしたため、個人の視点については理念へ統合し、行政の視点については基本計画部分に組み込むことといたします。</p>